

第4節 立江中学校交流全体学習

1 授業を日和佐中学校の生徒に公開してくれないだろうか

1997年度のスタートを間近に控えた3月であった。当時・日和佐中学校長であった角坂洋先生より、私のクラスの授業を日和佐中学校の生徒に公開してくれないだろうかという話があった。

まだ新年度のスタートが切られていない時期であり、どの学年を担任するかも決定していないこともあり、その3月に卒業していった生徒の授業だったら喜んで授業をさせてもらうのだがと思ひながらも、そんな機会をつくっていただけるのなら喜んで授業をさせてもらうと返事をした。

しかし、私の心の中には、バスで2時間近くもかかる距離にある日和佐中学校に、一つのクラスが出向くことはそうたやすいものではないという想いがあったが、この計画は1997年11月15日土曜日に実現する。

私はこの公開授業を日和佐中学校の生徒を巻き込んだ全体学習という形で実施した。それは全体学習や道徳学習のあり方について、私のクラスの公開討論を通して提起し、その授業内容を両校の生徒相互に深め合い、その想いを語り合う全体学習や道徳学習の「よろこび」をつかんでいく授業を共に体験したいと考えたからである。

そのときの授業は、私のクラス1年A組（1997年度）の生徒たちが文化祭で演じた人権劇『教科書無償のたたかい』を題材とした。この人権劇は文化祭において学校全体に公開し、ケーブルテレビに収録され、1997年の人権週間に板野町内に放映されることが決まっていた。その放送用に収録されたビデオを事前に日和佐中学校に送り、全校生徒で鑑賞してもらい、それぞれのクラスでそのシナリオを読んでもらった上で、交流全体学習の日を迎えるという設定である。

これは1年A組の生徒にとっても、人権劇のビデオやシナリオを題材とすることは、自分たちが演じた人権劇を見てもらい、それについての意見を聞かせてもらえるという期待があり、生徒たちのやる気を奮起させていくことにつながる。

そして何より、そのことが、2時間近くの道のりをバスに乗ってわざわざ日和佐中学校に向かう1年A組の生徒たちに、授業を公開する大きな決意と意欲を沸き立たせていき、生徒全員がその想いを語っていく公開討論となり、それが日和佐中学校の仲間との生き生きとした意見交換を実現する全体学習を創造することにつながっていくのである。

その翌年度、私は2年A組（1998年度）を担任することになるが、再び角坂先生より、前年度の取り組みを1回きりの打ち上げ花火に終わらせたくないという意向もあって、再び私の学級が日和佐中学校へ行き、授業を公開するようになる。その授業は、人権・同和教育推進の文部省指定校として、発表会当日に日和佐中学校の全校生徒が取り組む人権劇を公開してもらい、その日和佐中学校の仲間が取り組む人権劇を題材として全体学習を実施することになる。

部活動において、県大会とか、地区大会という交流は盛んであるが、道徳学習や人権・部落問題学習の交流というのは、初めての経験であった。そのような発想を持ち、しかもそれを実現していただいた角坂先生を始めとする日和佐中学校の先生方に感謝の気持ちでいっぱいである。

何事も志があるから動いていく。目の前の生徒の生命を思いっきり輝かせたいという教師集団の

願いが、一人一人の生徒を鍛え成長させていくことになると確信する。

そんな板野中学校1年A組（1997年度）、2年A組（1998年度）との交流全体学習を通して、日和佐中学校の生徒たちは、自己をみつめ、語り、他者とつながるよろこびを自らもののとし、文部省指定人権教育研究大会における公開授業を大成功させていくのである。

2 訴えを聞く生徒の表情が生きている

そんな2年間の取り組みを受けて、その翌年に文部省の指定を受けた小松島市立江中学校から交流全体学習の依頼がある。道徳学習や人権・部落問題学習という生徒一人一人の内面に迫る取り組みが、より多くの仲間との交流によって、その感性は磨かれていくことになるという確信が私にはあったが、当時立江中学校の教頭であった勝野忠治先生も同じような考えであった。

私は、勝野先生の強烈な思い入れもあって、事前に立江中学校の生徒に講演を行い、その講演の後、生徒会の役員を中心とするメンバーや各クラスの代表に、この学習の本質について語ることになる。そのとき、何人かの生徒からこの学習に対する思いが語られるが、その発言は出会ったばかりの私に、その素直な思いを思いっきり伝えてくるものであった。私は繰り返しこの学習の本質である自己をみつめ、語り、他者とつながることの意味について語っていくが、その訴えを聞く一人一人の生徒の表情は生きている。交流全体学習に向けてわくわくする思いで、私は立江中学校から帰り、板野中学校3年A組（1999年度）の生徒たちに立江中学校の生徒たちの生き生きとした表情を伝えた。

板野中学校3年A組の生徒たちにとっては、1年、2年と経験してきた日和佐中学校における交流全体学習の成果を立江中学校の仲間にも伝えたいという願いが溢れ、立江中学校における交流全体学習の日が待ち遠しくてしかたがない状況である。

私は立江中学校との交流全体学習の資料として、『自分以下を求める心』を選んだ。それは私が大切にしてきた資料であり、生徒一人一人の内面が生き生きと表現されていく資料として、最適の資料であると考えたからである。

3 わざわざこんなに集まって勉強しなくてもいいと思う

3年A組の生徒たちは、資料『自分以下を求める心』に寄せて様々な思いや願いを語っていくが、資料を通して自分を語る生徒の姿に、立江中学校の生徒は「どうしてそんな思いが語られるのか」という表情の中で公開討論を見つめている。しかし、私語をするものは全くなく、すべての生徒が一人一人の発言に集中している。

3年A組の公開討論から、立江中学校の生徒との全員討論に入っていくが、その意見交換の中で、クラスに10名近くの地区生徒のいる板野中学校ではなかなか表現されることが少ない発言に出会うことができた。それは立江中学校の生徒会長の次のような発言からスタートする。

「まだ14歳や15歳にしかならない自分たちが部落問題を考えても難しいし、はっきり言って『自分は差別をしない』と思っているだけでいいんじゃないかな。部落問題は年をとらないとわからないと

思う。たった14歳や15歳で悟っても大した結果にならないし、答えができるわけでもないし、自分は差別をしないと思っていたら、なくなるまではいかないけど、減ると思うし、先生たちも14歳や15歳の時に部落問題を勉強しても、今の先生の年にならなければわからなかつたと思う。14歳や15歳はこんな勉強するより、もっと良い友だちをつくっていっぱい遊んで、そういう差別を吹き飛ばせるようにしたらスカッとすると思う。」

この発言には、会場のすべての教師の目が点になる。私はこの生徒にいくら教師が人権・部落問題学習の重要性を訴えても、教師に対して批判的なこの生徒の心は揺さぶられないだろうと思った。私はこの発言を課題として、生徒全体に問いかけ、生徒一人一人の素直な思いや考えを通して応えていこうとした。そんな思いを受けとめるように、3年A組の生徒たちは、この発言を自分自身に問い合わせ、穏やかな表情でその思いを返していく。

「今、言ってくれた意見についてだけど、そんなに難しく考えないで、一人一人に差別をしないという意識があったら、こんな学習せんでもいいし、自分も聞いて思ったけど、部落問題、部落問題って言って頭を抱えて考えんでも、自分が経験していくうちに、その経験したことがわかつていつて、それで部落問題を解決するって感じの方がいいと思うし、今、自分が精一杯生きて、一人一人が『差別をせん』っていう意識を持ったら、自分以下を求めることもなくなると思う。」

決して感情をぶつけることなく、ひたむきに返す生徒の言葉が会場全体に染みる。しかし、私は同和教育の「よろこび」を生徒一人一人に届けるために、生徒の心の底にあるものを引き出し、徹底的に語り合いたいと思った。そのために、私は立江中学校の生徒に繰り返し意見を求めた。立江中学校の生徒は、仲間の言葉にその思いをつなげるように堂々と発言する。

「僕はわざわざこんなに集まって勉強しなくてもいいと思う。その理由はちょっと部落問題の勉強して、自分で差別はせんようにしたらいいことだと思うから…。」

4 どうやつたら差別をしてないって思えるのか

どうしてこんなに大がかりに取り組む必要があるのか。全体学習の意味についての問い合わせであった。この発言も、3年A組の生徒たちはしっかりと受けとめている。その表情が私にはまぶしく感じられた。一人の生徒は差別の現実を通して、同和教育の重要性を立江中学校の生徒に問い合わせた。

「私が思うのは、勉強せんでもいいとかではなくて、現実にある差別に気づいていくことが大事だと思う。実際、私自身の家族の中にも部落差別があって、じいちゃんが差別的なことを言ったりするんよ。私も最初、クラスの仲間が言ったように、このことは勉強していかなわからんし、大人になつたら、すごい大人っていうのは、子どもみたいに頭が柔らかくないんで、たぶん純粹に考えられなくなるんじゃないかなって思つたりして…。意見として、勉強しなくていいっていうのは、今勉強しているから、私らはちょっと後ろ向きかなって思つて…。その部落問題学習っていう問題じゃなくて、人間としての生き方として考えて行きたいと思う。」

決して立江中学校の生徒の発言を否定せず、じっくりと思いを語る姿。この問い合わせが、立江中

学校の生徒のまた違う本音を引き出すことになる。

「差別っていうのは僕らの時はあんまり考えなくてもいいと思う。この問題は大人がしっかりとやつたらいいことだと思う。」

「大人がしっかりとやつたらいい」という考えは、板野中学校の生徒の中にもある。3年A組の生徒たちは、立江中学校の生徒の発言をじっくりと自分に問いかけるように発言を返していく。

「初めの子が『差別してない』って言よったけど、私にはどうやつたら差別をしてないって思えるかわからんし、大人になってからやつたらいいって言よったけど、大人になって考えたんでは、小さい頃から思つとったことをなかなか直せんし、今のおじいちゃん、おばあちゃんが差別しよんは、小さい頃、勉強してなかつたからやし、正しいことがわかってなかつたら、知らんうちに差別しよると思うけん、正しいことを今、学習する必要があると思う。」

「私は家族とかが差別的なことを言っても、それが差別だとわからなくて、そのまま聞き流していたんだけど…。わからない差別があるからそれを差別だと気づくためにも、勉強していかなあかんと思うし、大人になると世間体とかを気にするし、あまり差別に目を向けなくなると思う。だから今、私たちが勉強して、なかなか聞いてくれないかもしないけど、ちょっとでも家の人に間違つたことを気づいてもらうためにも、勉強する必要があると思う。」

5 人間として何もしないというのは、差別を認めること

この2人の発言も、一人一人の生徒を揺さぶっていくが、一番最初に問題提起をしてくれた立江中学校の生徒会長は、自分自身の心の底にある考え方を思い切り吐き出すように、その考えをぶつけてくれた。

「勉強と道徳的なものを両方学ぶということは、難しいと思うから、どちらかを優先しないといけないと思う。勉強するなら勉強するで、道徳するなら道徳するで、両方やらされたら、それこそ今の子どもは頭を抱えて、いじめや人殺しをすると思う。大人は道徳の勉強を教えるなら、もっと教育を変えたらいいと思う。」

この発言を引き出したことは本当に大きい。この学習は立て前では変わらない。本音を本気でぶつけ合うことから本物になる。立江中学校の生徒たちの発言が、3年A組の生徒を鍛えていることを私は実感する。立江中学校の生徒たちの発言をじっくりと包み込みように、発言を返していく3年A組の生徒たちの姿が私にはまぶしく写る。

「さっきの子が『大人がやつたらいい』って言よったけど、私もちょっとそう思うんやけど、大人の立場に入っていけんという自分もあるんやけど、人間としてそこで何もせんというのは、差別を認めることやし、ちょっと一言でも自分の意見が言えたらしいと思うし、道徳と勉強がいつしょにできんという意見があつたけど、私も忙しいと思うし、なかなかできん部分もあると思うけど、人間的に私はこの学習を通して成長できたし、自分に自信が持てるようになったと思うんです。」

この学習を通して自分に自信が持てるようになったと返す言葉、この言葉も会場全体に響いていくが、まだまだ納得いかない立江中学校の生徒は、部落問題学習の限界を訴えるようにその思いを

語ってくれた。

「今、部落問題について知識としてわかるのはいいけど、それ以上大人に向かって何も言えないと思うから、こういう学習をするのはいいけど、それ以上に大人がなくしていくべきだと思う。」

この発言やそれまでの立江中学校の生徒の発言を確認するように、3年A組の生徒は、穏やかに精一杯の思いを返していく。一人の生徒は自分が捉えている同和教育のあり方をハキハキと語る。

「確かに俺も大人が差別をなくしていくんはいいと思うし、今になって俺らが勉強しているのは、今でも大人が部落差別や結婚差別やいろいろな差別をしているからと思う。今、俺らがこういう勉強するのは、差別を知って、差別している大人に注意するために知識をつけているんだと思う。確かに今は俺らは中学生だし、差別をなくすにしても、多少大人よりはいろんなところでひけをとるかもしれないけど、今の大人たちより俺らは（同和教育に対する）知識があると思うから、今、俺たちがする差別をなくすことは、大人になってから、今は差別をなくすために、知識を身につければなければならない。そのためにこういう学習をしているんだと思う。」

6 差別をしない、認めない人間になるには、どう生きたらいいのか

この生徒の勢いが、3年A組全体に乗り移ったように生徒の表情は、生き生きとしていく。そして、一人の生徒はそれまでの発言をまとめるように穏やかに人権・部落問題学習の本質について説いていく。

「大人になってから差別をなくすという意見や、その他の意見に関してだけど、もっと簡単に言い表すと『差別をなくす=差別を認めない』ということだと思う。『差別を認めない』っていうことは、差別をなくすことにつながると思うし、『差別を認める』っていうことは、自分が差別をしているということに等しいと思う。自然に考えていけば、大人が差別をなくしていくっていう考えが出るかもしれないけど、大人が差別をなくしていく、子どもや僕らはしなくていいのかということを考えると、やはり大人も子どももみんなで考えていくっていうことが必要だと思う。そう考えていくつていうことに関しても、そんなに深刻に考えるということではなく、自分の生き方や差別を認めない心を養っていくんだと思ったらいいと思う。

道徳や勉強を両立しなければならないと考えるんではなく、道徳っていうのは、人間としての生き方なので、自然に学んでいかなければないことだと思うから、素直に考えて、自分の気持ちを素直に表現していったらいいと思う。

大人になって勉強するっていう意見についてだけど、子どもの時から培われてきた一人一人の中にある意識や思いはなかなか変わらないものだし、さっきも言っていたけど、大人になったら子どものとき以上に、世間体を考えるようになるのが、今の現実だと思う。大人になってから学ぶっていうのも大切だし、子どものときに知識を養うのも大切だと思う。

今、僕らに問われているのは、『今、何をしていけばいいのか』『差別をしない、認めない人間になるには、どう生きたらいいのか』を考えていいと思う。

差別は一定の人にかかるんじゃなくて、全員にかかるし、差別を見逃すっていうのは、普通

に考えたら間違っていることだし、ましてや部落差別は生まれたところだけで、判断されるような全くくだらない差別を他人事のように考えるのは、まさに人間らしくないと思うし、その差別は深刻に受けとめていかなければいけないけど、重い雰囲気で考えるのではなくて、みんなが生き生きと考えていくことが必要だと思うし、みんなが『差別を許さない』という心を心の中に留めておくことが必要だと思う。」

これが中学生なのかという立江中学校の先生方の視線を感じながらも、この生徒はゆったりと、差別をなくす学習や道徳学習の意味について語り、その意味を会場の一人一人に明確に伝えていった。また、一人の生徒は、仲間の思いをしっかりと担ぐように、全体学習を語り、同和教育の重要性を訴えた。

「私はこういう全体学習が好きだし、もっとやった方がいいと思う。さっき言ってくれたけど、勉強とこういう学習を両方頑張るって、そんなにできんって言っていたけど、この勉強は答えがないし、自分の思うことを言つたらいいし、今、こういう勉強をして知つていかんと、自分がもし差別を受けたとき、そのことが差別ってわからんし、大人になっても今勉強しとかんと、わからんと思うけん、私はもっとこういう勉強をしたいと思う。」



日和佐中学校交流全体学習を終えて 於・日和佐町大浜海岸



1999年度板野中学校 3年 A組

7 数年後、必ず、私たちの世代の人が、国を背負って歩くときがくる

これらの3年A組の生徒たちの発言によって、立江中学校の先生方の表情も変わり、会場全体が段々と穏やかな雰囲気になっていく。このやり取りで立江中学校の生徒たちに何が残ったかは、その生徒たちにしかわからない。しかし、本心をぶつけてくれた立江中学校の生徒たちとの出会いによって、3年A組の生徒たちは人間が人間を大切に認め、共に成長していくこうとする人間のつながりをつくる同和教育の大切さをしっかりと学んでくれたと思う。

この交流全体学習のまとめとして、ひたむきで誠実な語り合いの中で、確実に成長していった生徒の姿を象徴する生活ノートを引用する。

【立江中学校の多くの人が言っていた「道徳の授業とか、人権学習は必要ないのではないか」という問題。

それは私がついこの間やっと飛び越えたハードルである。私も「全体学習はめんどくさいし、3年になったら、受験じよ。ほんなどことじよったら、勉強遅れるんちやうん」とか思っていた。しかし、私なりの「答え」を考えて、飛び越えた問題だ。

差別の中には知らなければ、気づかないものがある。それは自分の中にも差別意識があるから気づかないんだと思う。差別に気づいてなくそうすることは、自分の中の差別意識をなくすことにもつながるし、差別をしなくてすむようになつたら、卑屈なものがいっぱいいたまつて罪悪感をずっと持ち続けなくてもいいし、もしそれがなくなつたら、すごく心が軽くなつて、生き生きできると思う。

今、中学3年は、人生の中で、すごく大切な時期だと思う。今、心に誓ったことがあれば、それは一生、生きていく中で、とても大きく作用すると思う。だからこそ、今、強い意志を持つ必要があると思う。その意志を正しく見つけるためにも、道徳学習や人権学習があるんだと思う。

今、私たちの言葉は世間にかき消されても、数年後、必ず、私たちの世代の人が、国を背負って歩くときがくる。そのときに間違った知識を持った人が存在せず、逆に闘つていける人がふえたら、どんなにすばらしいだろうと思う。理想像のようではあるが、部落差別はなくせるはずだと思う。

人の心の中にある自分と違う人を認められない意識を消し去ることは難しい。自分をコントロールできる強い意志が必要になってくると思う。しかし、部落差別は違う。「地区に生まれたけんって、なんでおどおどせなあかんのな。」「見わけつくんか?」と私は言いたい。

今現在、「部落解放」と法律上ではされているが、実際のところ、人々の間では、「部落の人を差別すること」の方が、当たり前のようにされていると思う。しかし、逆転して「差別をすることははずかしい」ということが常識とされ、人の差別意識の一つ、「部落差別」がなくなることを信じて、私は行動していきたいと思う。】

この生活ノートは、私たち教師の心にも染みていく。本気で取り組む人権・部落問題学習が、人間をつくり、人間を育て、人間を輝かせていくことを確信する。

この立江中学校における交流全体学習のすべての記録を掲載しておきたい。

【授業記録】立江中学校交流全体学習・公開学習

主　題 「人間としての生き方を求めて」

資　料 『自分以下を求める心』(八ツ塚 実・学級記録より)

1999年5月29日(土) 第2校時

小松島市・立江中学校体育館

徳島県 板野中学校 3年A組

授業者 森 口 健 司

1 人を差別したり、いじめたりする世界から解放されていくとは、どういうことなのか

T1：立江中学校の仲間や保護者の皆さん、共に差別をなくしていこうとする多くの仲間に囲まれて、力強いものを感じています。今日はまず、板野中学校3年A組の授業を公開して、その授業を受けてこの体育館に集まった仲間と差別解消への思いを語り合えたらと思っています。そのきっかけとして、『自分以下を求める心』を資料として用意しました。この資料を通して、共に自分自身の生き方を見つめ、人を差別したり、いじめたりする世界から解放されていくとは、どういうことなのかをみんなで考え、語り合い深めていくことができたらと思います。いっぱいの視線を感じながら、思いっきり自分自身を表現していきましょう。資料に寄せる思いを語ってみてください。

MN(女)私は『自分以下を求める心』という資料にあるように、自分に自信がないと自分以下の事をさがしてしまいます。でも自分に自信があったらそんなことをしなくなります。1年や2年の時は、自分に自信がなかったから、自分より下の人を思って、その人と授業中に遊んだりして、そんな自分が好きでなかったけど、3年になって勉強とかいろいろ頑張れるようになって、自分が好きになって、心に余裕が持ってきたから、人の悪口も言うことも少なくなったし、自分が好きになったら、自分以下を求める心というのはなくなっていくと思います。

2 自分が好きになる3つの原則とは

T2：自分が好きになるという3つの原則が、1学期スタートの参観授業で提起されました。そのことを今日の授業の最初に確認にしておきたいと思います。3つの原則の1つ目は「嘘をつかない」ということ、2つ目は「人の悪口を言わない」ということ、3つ目は「今日できることは今日精一杯やる」ということ、このみんなと確かめ合った3つの原則がいつも心の中で作用して、よりよく生きていこうとする自分がいる。そんな自分が好きって実感する。今日もみんなでそんな思いを共有する楽しい時間にしたいと思います。

AM(女)私もそうだけど、きっとみんなも自分以下がほしいと思ったことがあると思います。そんな弱い心がなぜか出てしまします。人のことをとやかく言わないで、自分自身と闘っていけたら、自分以下を求める心や弱い心は出てこないと思うし、人の悪口を言わないで楽しく生きていけたら、自分が輝いていく、自分以下なんてほしいと思わないで自分を好きになっていけると思います。

CT(女)自分が精一杯力を出している時っていうのは、下の人を求めていないで、もっと自分を伸ばそうと思うんやけど、自分で満足できない生活をしている時は、何か自分の中でイライラしてくるから、自分より下って思う人をさがして、そのイライラを押さえようとして、教室で「昨日勉強しなかった」という子がいたら、変やけどその子から元気もらう時があって、そういう時の自分はやっぱり嫌やし、そういう気持ちをなくしていくには、自分が精一杯の生活をしていかなあかんと思います。

3 差別の落とし穴について自分の生活を通して考えていく

T3：世の中がすごく安定しているときは、差別は起こりにくい。でも世の中が不景気になって生活が苦しくなったら、いろんなところで部落差別が吹き出てくる。みんな自分が生き生きして安定したら、友だちのよろこびが自分のよろこびに思える。でも自分の中に卑屈なものがたまっていたら、すぐにねたんでしまったり、

ドロドロした意識が顔を出し卑屈になっていく。そういう差別の落とし穴について自分の生活を通して考えていきたい。差別って何だろう。差別やいじめを当たり前のようにしてしまう、そういう意識って何だろう。
SA(男)テストが返ってきたとき、人の点数を見て、ホッしたり、うらやましく思ったりします。そんなことを思いたくないと思っていても、思ってしまう自分が嫌です。たぶん、自分の中に弱い自分がいるんだと思います。今は弱い自分に負けています。弱い自分をつくらないように、自分以上をつくっていける自分になりたいです。

YS(女)今、SA君が弱い心って言っていたけど、私も弱い心があると思っています。人間には弱い心も強い心もあるし、それが本当のところかもしれないけど、私自身はそうやって私の心の中には弱い心があるんじゃって考えることで、そういう心を許そうとしていたと思います。人間にはそういう心があるから、私にもそういう心があつて当たり前で、自分以下を求めたりするのも仕方がないかなあって思つて、人を傷つけていたりしたことがあったと思うけど、この前みんなの意見とかを聞いて、それは人間として最低のこと、そんな意識を変えていくのが人間として生きていくことなんだと思うようになりました。毎日の生活でも、みんなが頑張っていると思ったら、私も精一杯やりたいと思うし、やりたいと思うことを実行していきたいし、さつき意見にも出たけど、自分を好きになりたいって思つたし、なかなかそういうことは自分に負けてしまうことがあってできにくいけど、頑張っていきたいと思います。

CK(女)私もこの資料を読んで自分のことを見直してみたら、やっぱりまだ全体学習とかで自分の意見を言っているけど、生活には何にも態度に表せてないなと思います。どうしたら態度に表すことができるのかを考えたら、一日一日生活ノートを通して自分を見つめ直したり、人の意見に惑わされない自分をつくって、自分を表現できるようにしていきたいと思います。まだまだ後で何か言われるのが嫌で自分を隠すことがあるけど、そういうところをどうやつたら直せるか、みんなで話し合つて、もっと自分が出せるようにしていきたいです。

4 自分以下がいるという意識は、自分は有利という自己満足でしかありえない

NN(男)自分以下を求める心について、さつきクラスのみんなから意見が出たんですが、自分以下を求める心というのは、部落差別や他の差別につながっていくと思います。自分以下がいるという意識は、自分は有利という自己満足でしかありえないし、自分自身の中にも自分以下を求める心があります。その自分以下という心にどうやって打ち勝っていくかということは、自分が好きになることや自分に自信を持つことという意見が出たけど、その通りだと思います。自分を好きになつたり、自分に自信を持つことがどういうことかを少し考えてみると、それは自分に嘘をつかない生き方が大切になってくると思います。僕自身の中にある自分以下を求める心というのは、自分が一番下になるのが怖いというのが、僕の本当の気持ちです。自分が一番下になってバカにされる状況に陥つたら、自分がすごくみじめに思つて、自分自身に自信が持てないという状況になつてしまつと思います。他人の生き方をとやかく言わない生き方をしていくのが、やっぱり大切だと思うし、自分自身に自信を持つために、日々の生活というは、一日一日の授業を精一杯取り組むということが、自分に自信が持てるということにつながります。自分の心の中に卑屈なものがたまるというは、自分がそのときに友だちに対して嫌な言葉を言ったときに、あまり自分に悪い感情がないとしても、やっぱり自分の中には悪いという感情があるので、それがたまっていって、自分が卑屈になり、自分に自信が持てないということになると思います。少し『自分以下を求める心』からはずれるんですが、部落差別の問題に対して、僕は周りの状況というのは、実態のない世間といふものせいにして、「自分は部落差別をしていない、世間が悪い」と言って、本当は世間といふものが言い表せないので、世間のせいにしてしまうという、世間のせいにして自分を正当化してしまうという状況が多く流れてゐるのではないかと思います。やっぱりそういう問題をクリアしていくためにも、自分に自信が持てる生活をつくりだしていくということがすごく

大切だと思います。

T4：自分が好きになるということ、自信を持つということ。卑屈なものがどんどんたまって、差別を当たり前のようにしてしまう状況。また世間のせいにして、世間の中で流れてしまうということ。今の発言を受けてみんなの考えを返してほしい。

YS(女)さっき言ったことと矛盾するかもしれないけど、みんな強い人じやないし、頑張って自分を好きになりたいと思うけど、やっぱり嫌なこととかがあるし、卑屈になっていく自分もあるんですよ。こういう場であっても、「私は自分が好きになりたいです」って自分の気持ちが言えないと、本当には自分のことを好きになれんと思うんです。実際いろんな考えがあって、そこで間違いもあって、そこで否定されてしまうと、自信がなくなったりするんやけど、私が思うのは、自分が好きになるということは、やっぱり他の人にも応援してもらわなければできないことと思うんですよ。やっぱり仲間がいて、そこで意見を言ってくれたり、意見を聞いてくれたりすることで、良い関係ができる、それが自分以下を求める心をなくしていくことにつながるんじゃないかなと思います。

SA(男)自分以下を求める心というのはたぶんみんなの心にあると思うんやけど、人をからかって下に見たり、学力とかで人間を上とか下とかで考えたらあかんと思う。その中で自分が一番優れていると思って相手をけなすということは絶対にしてはならないことで、共に頑張っていくことがなければ、自分の中のモヤモヤがなくなっていてかんと思うし、どうしても僕もしてしまうんやけど、勉強をしてないヤツが「テスト勉強しよん」って言うてきて、自分はしようたけど、あいつが「しょらん」って言うたときに、ホッとしたりとか、「あいつはしょらんけん、僕はいける」という思いになってしまふ。どうしたらいいと思いますか。

FK(女)「勉強した?」とか「勉強せんかった?」とか友だちに言うんやけど、友だちを油断させているようなときがあります。いっしょに頑張っていくという関係というのがいいなあって思うけど、嫌な自分が顔を出すことがあります。

5 友だちに対して嘘をつかず、素直な自分を出していくことが大切

NN(男)僕が思うのは、そのテスト勉強をするということは、全力で投球した方がいいと思います。テストの時に勉強するのは普通だと思うし、その今自分にできることを精一杯やっていくという考えにあっていると思います。テストの時はテストに打ち込んで、遊ぶときは遊ぶ、そういうけじめをつけて取り組むことが自分に自信を持っていくことにつながると思います。友だちがしていないから自分もしなくていいと思ってはいけないし、自分はしているからしていない子を非難するっていうことも間違いだと思います。その友だちに「いっしょに頑張ろう」って声をかけるならまだしも、「あいつはしてないけん、あかんヤツじや」とか思ってしまうのが、やはり自分以下を求める心だと思います。さっきの意見で「一人一人は違う」という意見が出たけど、僕も全くその通りだと思うし、一人一人が違うからおもしろいし、みんながみんな、頑張ることはないと思います。だからこそ、今僕らに問われていることは、クラスのつながりだと思います。そのクラス内のつながりもなかなかつくれないものですが、やはり自分に素直になるということを通して、友だちのつながりをつくっていくことが大切だと思います。友だちのつながりをつくるということに対しても、なかなかできないけど、やはり友だちに対して嘘をつかず、素直な自分を出していくことが大切だと思います。

CT(女)授業中とかに、「あの子は勉強しよらんけど、私は勉強してもっと賢くなってやる」とか、「ああいう子が高校に行けんのじや」って思うときがあります。学校というのはいろんな子がいて、いろんな考え方がある、だから楽しいのに、でも自分と違う子を認められない気持ちがあって、そこで悪口とかを言ってしまうんやけど、自分と違うところをいっぱい見つけて、その人の良いところってつなげていったら、自分と違うからって言ってその人を下とかに見んでもいいと思います。今の私はあまり人の良いところを見る目や心がないから、もっといろんな人を見て、いろんな良いところを見つけていける心をつくっていきたいです。

6 今勉強とかでつらいことがいっぱいあるけど、私には仲間がいてパワーをもらえる

MN(女)今勉強とかでつらいことがいっぱいあるけど、私には仲間がいて、つらいときもパワーをもらえるんよ。一人だったらだめになる時もあるんやけど、仲間に助けてもらいたいよるけん、今の自分がいると思う。だから、これからも友だちをつくっていくけど、信じられる仲間もいっぱい作りたいです。

KT(女)今、勉強とか頑張っているけど、自分から主体的にやったときは、自分が一番好きな時なんよ。私は自分以下がいらない人間になりたいけど、それは一瞬なれても、また自分以下が欲しくなって、人を下に見て安心する自分になるんよ。でも自分の生活にまじめにぶつかったら、人のことを好きになれると思うし、得意も不得意も認めて、人の小さな欠点をさがしたりせずに、それを認め合えたらしいと思いました。

CK(女)テスト勉強とかでやっていない子の話を聞いたら、自分が少しでもやっていたら、自分が上の方に思うけど、でもそういうことは自分が本気でていたら、周りのことなんて気にならないだろうし、自分が本当に一生懸命やっていたら、していない子にも「一生懸命やろう」ってさそったりとか、みんなで良くなつていけると思うし、そうしたら高校入試とかも一人一人が頑張っていったら、みんなの成績も良くなるし、クラスも活気が出てきて、すごくみんなで頑張ろうっていう気持ちになって、自分以下をつくろうと思う気持ちではなくなると思います。

7 心にゆとりを持って物事を考えていく人間になれば、きっと差別しない人間になれる

MF(女)私は生活の中で自分はあの人よりもっと思つてはいけないのはわかっているけど、本当に差別的な行為が行われている場では、自分は差別する人間に変わっていると思います。だからその間違いに気づいてなおしていかれる人間になりたいと思います。そうすれば、間違いに気づいて、自分の心にある差別意識を少しずつなくしていくと思います。心にゆとりを持って物事を考えていく人間になれば、きっと差別しない人間になれると思います。

YA(男)この資料を読んで僕も自分以下を求める心があると思った。テストの時でも、下がいたら安心してしまうときがある。そこで友だち関係に上下をつけてしまうときがある。自分以下を求める人間になるには、その日その日の生活を見直していくといつたらいいと思う。

Y0(女)私の自分以下を求める心っていうのは、だれかより幸せでいたいとか、だれかより優れていたいという気持ちだと思います。自分と闘うことのできない、人と闘うことしかできない、自分のことだと思います。この気持ちをなくしていくためには自分を知って、みんなそれぞれ違うということを知らなければいけないと思います。自分を知ることっていうのは、自分の欠点や良いところを全部知って、それを受け止めることだと思います。良いところはそれを自信に変えて、欠点はそれを直そうと努力して、その努力をまた自信に変えていくことができたら、自信がすごくついて、自分以下というのが必要でなくなると思います。私は自分と闘い、自分に自信を持って生きられる人間になりたいです。

8 友だちの父さんが小学校1年生の入学式になくなっていることを知った

NK(男)さっきみんなが話してくれたこととちょっと話がずれるかもしれないけど、俺の友だちのことを話したいと思います。俺の友だちにF君という今いっしょに学習会で共に学んでいる仲間がいるんですが、この前の学活で、その友だちの父さんが小学校1年生の入学式になくなっていることを知って、しかもその死んだ理由に部落差別があったことを知りました。僕はなぜ今になってそのことが堂々と話せるんだろうと思いました。自分も祖父が亡くなっているけど、あまりそのことは人に話したくありません。そんな俺に比べると、F君はなぜそこまで自分のことが話せるのかというと、やっぱり自分の大切な人が亡くなった理由に部落差別があるのを知って、それをどうしても許せないという気持ちが、彼に堂々と自分自身のことを語らせていいんだと思います。そのことで僕が思うことは、その友だちと協力して部落差別をなくし、もう二度とそのような思いや、こんな学習などしなくていいような未来にしていきたいです。

T5：まだまだ本当に厳しい現実がある。本気で取り組んでいく仲間を、本気の取り組みを通して増やしていくかなければ、この問題は解決しない。今回の資料は『自分以下を求める心』になっているけど、それはきっかけであって本当にみんなで考えたいことは、「今」「ここ」にある現実なんです。この現実をどうするのか、どう生きるのか、何が問われているのか、このような学習をする意味についてもっと考えていただきたいと思うんです。

9 「今」「ここ」にこの学習を通して信じ合える仲間がいるから言える

SA(男)さっきNK君が話をしたけど、そのF君っていう子は、僕も友だちで普通だったら、自分の親が亡くなつたことを、絶対人には簡単に言えません。F君が何で言えたかというと、「今」「ここ」にこの学習を通して信じ合える仲間がいるからだと思います。信じる仲間がいたら、自分が持っている家族の秘密など、吐き出して、そしてみんなと話し合って、自分がどう対処していったらいいかなど、この学習を通してやつたらいいと思います。でも実際、今現実に残っている部落差別がどんな恐ろしいものは知りません。ぶつかったこともないし、親に聞いても、親もあんまり関わったことないって言よったけど、おじさんに聞いたら、おじさんは大阪にいたときそこで知り合った人に「おまえエタだろう」って言われたそうです。そのことをおばあちゃんに聞いた時、おばあちゃんは「実はな…」と部落に生まれたことを話したそうです。僕らの親も、おばあちゃんも僕らが差別を受けないかと思っているだろうし、そのことがはっきりとわかっていないので部落差別をどういうふうに話したらいいか悩んだと思います。部落差別が起こっている世の中で自分たちは、どういう雰囲気でそんな愚かな差別に負けないで、自分のことをはっきりと言えるかどうか考えてみてください。もし自分が大人になったら自分の子どもにもはっきりと言ってあげてください。この差別は勝手につくられ同じ人間なのに差別する人がいるということ。しかし、この差別にぶつかっても、自分は絶対に逃げるなど…。僕はそうしていくと思います。

10 「それはおかしい」って言っても、おじいちゃんやおばあちゃんは、聞く耳を持ってくれない

MN(女)差別の現実で私の家族にしても、おじいちゃんやおばあちゃんは差別的なことをいつも私に言うし、特に部落の人については、人間でないみたいにいうし、それがすごくつらくて、「それはおかしい」って言っても、おじいちゃんやおばあちゃんは、聞く耳を持ってくれんし、すごくつらくて自分にも腹が立ったし、それが私が初めてぶつかった身近な差別だったし、どうしてってずっと思っていたけど、言うたらわかってくれるって思つたけど、何もできなかつたんがつらかった。自分が大切って思っている人がそうやって差別していたし、それが私の大切な仲間に對してだったから余計につらかった。私は部落に生まれれば良かったってずっと思いよつた。それはきっと差別している家族から逃げたかったんだと思う。真友会（高校生友の会）に行っても何か立場が違うような気がしつた。けど、最近は立場が違つても差別をなくそうとしてはるのはいっしょやけん、自分なりに頑張つてきたいと思つよる。私は今いろいろな世界を見よるし、いっぱい新しい世界に行つきてよるけん、いろんなことが吸収できよる。私はみんなよりいっぱい学ぶ機会がある。自分も成長しながら、自分が学んだことを他のみんなに伝えて、みんなで成長していきたい。つらいこととかあったら、クラスの人に言える関係をつくりたい。

11 自分をもっと素直に出していく関係をつくって自分を伸ばせたらと思う

OT(女)今、MNさんが「部落に生まれたらよかつた」って言よつたけど、私は今はちょっと違うけど、「何で部落に生まれたんだろう」って思つていたんです。それは「学習会に行けよ」って言われるし、何か部落問題の資料とかでも、学習会に行ってないけん、「逃げよる。逃げよる」って思つていて、全然おもしろくないといふか、上辺だけで、学活の時間とか話をしようつたんです。でも3年になって自分を変えたいと思って、今は学習会に参加できるようになったし、中学生集会にも行けるようになったし、部落に生まれたことで「本気

で部落のことを考えるようになったのでよかったですんかなあ」と思えてきて、中学生集会とかに行ったら、今、自分が思っていることを素直に言えるようにしたなあって思っているんです。手を挙げて発表するのは、ドキドキするし勇気もいるけど、学習会の仲間も、今、横に座っている子も、本当の仲間としてつながっていって、自分をもっと素直に出していく関係をつくって、自分を伸ばせたらと思います。

T6：初めて会って初めてこういう形で授業を公開して、心の底にあるものを語り合うっていうのは、すごくエネルギーがいります。そのとっかかりとして『自分以下を求める心』を提起したんですけど、これはきっかけなんです。みんな自身がここで何を感じ、何を思うか、部落差別というのは「今」「ここ」にあるんです。みんなの家族の中にあるんです。みんなの身近なところにあるんです。だから「今」「ここ」で私たちがどう家族の人、近所の人、友だちとつながり、何をつかんでいくかが求められていく学習なんです。10分間休憩して、今度は立江中学校の仲間とこの学習やこの問題について語り合うことができればと思います。

【授業記録】立江中学校交流全体学習・全員学習

主　題 「人間としての生き方を求めて」

資　料 『自分以下を求める心』(八ツ塚 実・学級記録より)

1999年5月29日(土) 第3校時

小松島市・立江中学校体育館

徳島県 板野中学校 3年A組

立江中学校全校生徒

授業者 森 口 健 司

1 母さんの悲しみと父さんの無念を次の人へとつないでいって部落差別をなくしていきたい

T1：公開授業のいろいろな発言から「真友会」とか「中学生集会」という言葉が出てきて、それって何だろうと思ったり、板野中学校のF君のことが出てきたけど、そのことを最初に確認しておきたいと思います。「真友会」というのは、中学の時に学習会で中心になっていた仲間が高校でも部落差別をなくすために取り組んでいる「高校生友の会」っていう取り組みがあるんです。その「高校生友の会」を板野町では「真友会」と読んでいます。MNさんは中学生であり、地区外という立場ですけど、その「真友会」に参加して部落差別をはじめとする様々な差別の問題について学習しています。それと「中学生集会」というのは、夏休みに徳島県の学習会で学んでいる仲間が、徳島県全体から集まってきて、部落差別をなくすためにどう取り組んでいくかという集会をしています。その夏休みの中学生集会に向けて今、毎週授業のある土曜日に、中学生集会の実行委員会が行われているけど、その実行委員会に参加していることをCTさんが話してくれたんです。F君は本当はここに来たかったんですけど、クラスが違うということで参加できませんでした。F君は、中学3年になった最初の社会の授業で、「家族のつながり」について語り合った時、小学校1年の入学式の日に亡くなった父さんことを語ったんです。私はそのとき、中学3年の時に担任した彼の兄ちゃんのことを話したんです。そのことをまず話しておきたいと思います。

【F君の兄さんが中学3年だった3年前、狹山（狹山差別裁判糾弾）の集会に私はF君の兄さんといっしょに参加しました。その集会で、石川一雄さんに対する部落差別と、自分の父親の命を奪った部落差別とが重なり、彼の生き方は大きく揺さぶられたんです。その帰り、私の車で私の横に座っていた彼が、徳島大学の近くの信号で止まっていたとき、突然「先生、あの信号の向こう側にあるガソリンスタンドの隣に食堂(ファミリーレストラン)があるんよ。あの食堂にワイの父ちゃんがワイを連れていってくれたことがあったんよ。あの食堂ごっついうまいんよ。ワイの父ちゃんめちゃくちゃ優しかったんよ」と自分から言葉を口にすることができなかった彼が語った言葉。その言葉から、彼自身の部落問題を直視する生き方がスタートしたと思いました。部落差別をなくしていくという営みは、人間性を取り戻していく闘いなんだと、F君の兄さんを通して思うんです。】

F君はお兄さんの思いをしっかりと抱ぐように私の話を聞いていました。そして、その翌日その授業についてのレポートを学校へ登校するなり私のところへ直接持ってきたんです。そのレポートがこれです。紹介します。

【みんなの「父親がうつとうしい」という言葉を聞くと、とても腹が立ってくるけど、なぜか羨ましくもなる。それは父親がうつとうしいのは父親が生きている証拠だからだ。

僕の父さんは生きてはいない。酒がもとで、アルコールがもとで死んだ。僕が小学校一年の入学式の日に死んだ。そのとき僕はなぜか泣かなかった、いや泣けなかった。涙が出なかった。まだ小学生になったばかり、入学式のことだから、父さんが死んでしまったという意味を理解していなかったと思う。

けれど父さんことを書いたり、話をしたりしていると涙が出てくる。今日の公民の時間「父親がおらん」という話をして、先生が僕の兄さんの話をしてくれた時、僕は必死に涙をこらえていた。

僕たち兄弟の部落差別に対する思いは、部落差別が憎くてしかたがないという気持ちだ。なぜなら、父さんが死んだ、もう一つの理由に部落差別があるからだ。

父さんは仕事先で、部落のことについて差別的なことを言われて悔しい思いをした。とても静かで、優しくてとてもよい父さんだったが、部落差別を受ける中で、酒を飲むようになり、その酒で生命を縮めていった。

その優しかった父さんが死んだと聞いて、なぜかとても複雑だった。小学校一年の時で、他のことはそんなに覚えていない。でも、父さんが亡くなった時、とても悲しかったことははっきりと覚えている。

兄弟三人の中で一番僕が父さんへの思い出が少ない。僕はとてもこの悲しみから一生逃れることはできないと思うし、誇りにもできないけど、父さんことを心に刻んで一生忘れる事のないように生きていきたい。

僕には父さんがいないけど、その分母さんがいる。二人の兄さんがいる。その母さんと兄さんが、父さんの代わりをしてくれている。とても感謝したい。けれど父さんがいないのは、とても悲しいことには違いない。

父さんが死んで一番悲しいのは、ばあちゃんでもなく、じいちゃんでもなく、二人の兄さんでもなく、僕でもない。父さんが亡くなって一番悲しいのは母さんだと思う。

そう思うのは、父さんの葬式の時、母さんが父さんの棺（ひつぎ）にしがみついて泣いて離れなかつたからだ。それだけ母さんは悲しかったのだと思う。

母さんの悲しみと父さんの無念を、何とか次の人に、次の人にとつないでいって部落差別をなくしていきたいと僕は思っている。だから僕は学習会に一番多く出席している。その勢いで高校へ進学し、高校進学後も真友会（高校生友の会）にも参加して、部落解放の道を歩いていきたい。そして、僕は、一日も早く部落差別がなくなることを信じて行動していきたい。】

皆さんの中にどのような思いが広がっただろうか。今日の資料は『自分以下を求める心』ですけど、資料を学ぶのではなくて、この資料を通して、「今」「ここ」にある差別の問題、クラスの中にある様々な課題、いろんな現実を見つめながら、本気でこんな愚かな差別を俺たちが蹴散らし、自分たちの手でなくしていくという思いを確かなものにしていく。そして、クラスの、家族のかけがえのない絆、つながりをつくっていく、そういう自分になっていく時間になつたらと思います。意見ください。

2 行政や世間だけのせいにして、自分を正当化してしまう弱い面がある

NN(男)部落差別の問題についてですが、国民的課題と言われている部落差別なんですが、やはり厳しい現実があると思います。徳島県は他の県に比べて部落問題学習が取り組まれている方だと聞くけど、部落問題学習が行われているはずなのに、部落のことを知らない人が多くて、その知識のなさが差別を今現在まで残しているという原因の一つではないかと僕は思います。自分の知識があやふやなために、周りの間違った考えを刷り込まれて、知らず知らずのうちに部落差別やいろんな差別をしているという現状があるのではないかと思います。自分自身が部落問題について考えたときの率直な思いは、僕はこの勉強をしたときに行行政や世間

だけが悪いって思ってしまうところがあったし、行政や世間だけのせいにして、自分を正当化してしまう弱い面がありました。この差別や部落差別を現代に残しているのは、その実態のない世間や行政ではなく、やはりここに存在している僕ら一人一人が差別を残してきたことだし、その問題について考えていくことは、僕は当然のことだと思います。その部落問題について取り組むということで、「あの人は部落の人だからあんまり一生懸命にしている」という周りの厳しい状況や非難の声とかもあるのが現実だし、その部落差別を過去にあったことのように教えてている状況が日本全域で考えてみて、社会科の授業の中にもあるのではないかと思います。僕らの課題や行政の課題というのは、いろんなものがあるし、その今、僕らが立たされている状況をしっかりと自分が把握して、今自分に問われていることは、今自分は何をしていかなあかんのかっていうことを考えていくことが、僕は必要でないかと思います。この部落問題学習については、差別をなくしていくっていうことだけど、僕が思うには、自分の生きる道を探す学習のように思えてきます。この学習は、自分の生き方を学んでいくことにつながっていくと思います。

T2：部落問題学習が一人一人の魂を揺さぶっていく取り組みになっていない。中学校を卒業したら終わり、この時間が終わったら終わりという現実、一人一人の生活につながっていない現実、本気でこのことを考えていって、それを一人一人の生活の中に根付かせていき、一人一人の生き方を豊かなものにしていく。そういう学習していくために、「誰が手を挙げるんだろう」とか、「あの子が発表するんだろう」という雰囲気ではなく、みんなでこの場の雰囲気を本当の思いが言い合え、そのことをみんなで真剣に考えていく雰囲気にしていこう。

3 思いつきり自分が思っていることを言ってしまおうという気持ちで自分は話しています

MK(男)NN君が言ってくれたことと、ちょっとはずれるけど、先生が言ってくれたことについて話をします。さっき「誰が手を挙げるんだろう」と言っていましたけど、どうせこれっきりで終わりだからって言つてしまつたよね。俺はこれは良い意味で考えていいと思います。どうせこれっきりだし、立江中学校の皆さんのお名前も知るわけでもないし、どうせこれで3年生は最後かもしれないし、どうせなら笑いながらしゃべろうとか、まあ今自分がしゃべっているのもドキドキしているんですけど、どうせこれでとりあえず終わりという気持ちで、思いつきり自分が思っていることを言てしまおうという気持ちで、自分は話しています。どうしてみんな黙っているのかというと、たぶんみんなは緊張しているんだし、発表して笑われたら恥ずかしいとか思っている人がいるかもしれないけど、別に名前を知らないヤツに笑われたって、別にどうでもいいと思うのが、今の俺の気持ちです。だから俺は今手を挙げて、このことを話しています。どうせこれで最後、ここで話すこともたぶん最後だから、今板野中学校で話すよりはっきりと話しています。

T(井上)：立江中学校に来て、板野中学校の子が、すごい自分の気持ちが言っているなって思つて、すごく感動して泣いてしまつたんです。そして、みんな部落問題についてすごく考えているなって思つたんです。私は学習会専任指導員になって、この部落問題のことを深く考えるようになったと思います。でも、NN君やCTさん、SA君とかは今中学校3年生の段階ですごく深く考えているなって思つて感動しました。それでみんなでいろんなことを考えていきたいなってすごく思いました。それから学習会もみんながもっともっと参加できるように、学習会専任指導員3人で頑張っていきたいと思っています。

4 部落問題は年をとらないとわからないと思う

TA(並木・男)板野中学校の子はすごいと思うけど、俺から言わせてもらえば、まだ14歳や15歳にしかならない自分たちが部落問題を考えても難しいし、はっきり言って「自分は差別をしない」と思つていただけでいいんじゃないかなと思います。部落問題は年をとらないとわからないと思うし、たった14歳や15歳で悟つても大した結果にならないし、答えができるわけでもないし、自分は差別をしないと思っていたら、なくなるまではいかないけど、差別は減つていくと思います。先生たちも14歳や15歳の時に部落問題を勉強したときは、部落

問題についてわからなかつただどうし、実際今の先生の年にならなければわからなかつと思います。14歳や15歳はこんな勉強するより、もっと良い友だちをつくつていっぱい遊んで、そういう差別を吹き飛ばせるようにしたらスカッとすると思います。

SA(男)今、言ってくれた意見についてだけど、そんなに難しく考えないで、一人一人が差別をしないという意識があつたら、こんな学習せんでもいいと、自分も聞いて思つたし、部落問題、部落問題って言って頭を抱えて考えんでも、自分が経験していくうちに、その経験したことがわかつていて、それで部落問題を解決するって感じの方がいいと思っています。実際今、自分が精一杯生きて、一人一人が「差別をせん」っていう意識を持つたら、自分以下を求めることもなくなると思います。でも、そんな意識を強くするためにも、この学習をみんなで楽しくやっていったらいいと思います。

5 わざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいい

HB(並申・男)僕はわざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいいと思います。その理由はちょっと部落問題の勉強して、自分で差別はせんようにしたらいいことだと思うからです。

YS(女)私が思うのは、勉強せんでもいいとかではなくて、現実にある差別に気づいていくことが大事だと思うんです。実際、私自身の家族の中にも部落差別があつて、じいちゃんが差別的なことを言つたりするんです。私も、クラスの仲間が言ったように、このことは勉強していかなわかるんし、大人になつたら、すごい大人っていうのは、子どもみたいに頭が柔らかくないんで、たぶん純粋に考えられなくなるんじゃないかなって思つたりするんです。意見として、部落問題を勉強しなくていいっていうのは、今私たちは部落問題について一生懸命勉強しているから、その考えはちょっと後ろ向きかなって思うんです。この部落問題っていう問題にこだわるのではなくて、私はこの学習を人間としての生き方の学習として考えていきたいと思うんです。

KC(並申・男)差別っていうのは、僕らの時はあんまり考えんでもいいと思います。子どもはこういう場があるから心配ないと思うけど、大人がしっかりやつていつらいいと思います。自分以下を求める心でテストの時、勉強をやっている人と、やっていない人がいて、やっている人がやつていない人にいうのは仕方ないと思うし、僕は運動があまり得意じゃなくて、運動のことに関して言われると、何も言えんから、そういうのは自分以下を求めているのではないと思います。

6 大人は道徳の勉強を教えるなら、もっと教育を変えたらいい

TA(並申・男)さつき言われた人がありましたけど、誰も部落問題や自分以下を求める心を勉強しなくていいというわけじゃなくて、教科の勉強とその道徳的なものを両方一生懸命頑張るということは、難しいと思うから、どちらかを優先しないといけないと思います。教科の勉強するなら勉強するで、道徳するなら道徳するで、どちらか一つにしほつた方がいいと思います。両方やらされたら、それこそ今の子どもは忙しくて頭を抱えて、いじめや人殺しをするようになると思います。大人は道徳の勉強を教えるなら、もっと教育を変えたらいいと思います。

MN(女)初めの子が「差別はしてない」って言よつたけど、私にはどうやつたら差別をしてないって思えるかわりません。大人になってからやつたらいいって言よつたけど、大人になって考えたんでは、小さい頃から思つてことをなかなか直せんし、今のおじいちゃん、おばあちゃんが差別をしているのは、小さい頃、勉強してなかつたからだし、正しいことがわかつてなかつたら、知らんうちに差別をするようになると思うから、正しいことを今、学習する必要があると思います。

7 知識としてわかるのはいいけど、それ以上大人に向かって何も言えない

YD(並申・男)今、部落問題について知識としてわかるのはいいけど、それ以上大人に向かって何も言えないと思うから、こういう学習するのはいいけど、それ以上に大人がなくしていくべきことだと思います。

FK(女)私は今まで家族とかが差別的なことを言っても、それが差別だとわからなくて、そのまま聞き流していることが多かったんです。世の中には、わからない差別があるからそれを差別だと気づくためにも、勉強していかなあかんと思います。実際、大人になると世間体とかを気にするし、あまり差別に目を向けなくなると思います。だから今、私たちが勉強して、なかなか聞いてくれないかもしれないけど、ちょっとでも家の人に間違ったことを気づいてもらうためにも、勉強する必要があると思うんです。

YS(女)FKさんに付け足しで、さっきの子が「大人がやつたらいい」って言よったけど、私もちょっとそう思うんです。実際大人の立場に入っていけないという自分もあるんですけど、人間としてそこで何もしないというのは、差別を認めることになるし、ちょっと一言でも自分の意見が言えたらいいと思います。道徳と教科の勉強がいっしょにできんという意見があつたけど、私も忙しいと思います。なかなかできん部分もあると思うけど、私はこの学習を通して、人間的に成長できたり、自分に自信が持てるようになったと思うから、この学習はすごく重要だと思うんです。

MK(男)確かに俺も大人が差別をなくしていくんはいいと思います。でも今、俺らが部落問題を勉強しているのは、今でも大人が部落差別や結婚差別やいろいろな差別をしているからと思うんです。今、俺らがこういう勉強するのは、部落問題をしっかりと理解して、差別している大人に注意するために知識をつけているんだと思うんです。確かに今は俺らは中学生だし、差別をなくすにしても、多少大人よりはいろんなところでひけをとるかもしれないけど、今の大人たちより俺らは同和教育に対する知識があると思うんです。それは今までの部落問題学習の成果だと思います。今、俺たちが実際に部落差別をなくしていくために行動していくことは、大人になってからになるだろうけど、大人になったとき、堂々と差別をなくす行動がとれるように、今は差別をなくすために、知識を身につけなければならないと思うし、そのためにこういう学習をしているんだと思います。

8 自分自身の人間としての生き方を考え、差別を認めない心を養っていくんだと思ったらいい

NN(男)大人になってから差別をなくすという意見や、その他の意見に関してだけど、もっと簡単に言い表すと「差別をなくす=差別を認めない」ということだと思います。「差別を認めない」っていうことは、差別をなくすことにつながると思うし、「差別を認める」っていうことは、自分が差別をしているということに等しいと思います。自然に考えていけば、大人が差別をなくしていくっていう考えが出るかもしれないけど、大人が差別をなくしていく、子どもや僕らはしなくていいのかということを考えると、やはり大人も子どももみんなで考えていくっていうことが必要だと思います。そう考えていくっていうことに関して、そんなに深刻に考えるということではなく、自分自身の人間としての生き方を考え、差別を認めない心を養っていくんだと思ったらいいと思います。道徳や教科の勉強を両立しなければならないと考えるんではなく、道徳っていうのは、人間としての生き方の学習なので、自然に学んでいかなければならぬことだと思うから、素直に考えて、自分の気持ちを素直に表現していったら、道徳の学習は楽しくなっていくし、その中で大切なものを学んでいくことができると思います。

大人になって勉強するっていう意見についてだけど、子どもの時から培われてきた一人一人の中にある意識や思いはなかなか変わらないものだし、さっきも言っていたけど、大人になったら子どものとき以上に、世間体を考えるようになるのが、今の現実だと思います。大人になってから学ぶっていうのも大切だし、子どものときに知識を養うのも大切だと思います。

今、僕らに問われているのは「今、何をしていいのか」「差別をしない、認めない人間になるには、どう生きたらいいのか」を考えていくことだと思います。

差別は一定の人にかかるんじゃなくて、全員にかかる問題だと思います。だから、差別を見逃すっていうのは、普通に考えたら間違っていることだとわかるし、ましてや部落差別は生まれたところだけで、判

断されるような全くくだらない差別を他人事のように考えるのは、まさに人間らしくないと思います。その差別の現実は深刻に受けとめていかなければいけないけど、重い雰囲気で考えるのではなくて、みんなが生き生きと考えていくことが必要だと思います。そして、みんなが「差別を許さない」という心を心の中にとめておくことが必要だと思います。

9 この勉強は答えがないし、自分の思うことを素直に言つたらいい

CT(女)私はこういう全体学習が好きだし、もっとやった方がいいと思っています。さっき言ってくれたけど、教科の勉強とこういう学習を両方頑張るって、そんなにできんって言っていたけど、この勉強は答えがないし、自分の思うことを素直に言つたらいいし、今、こういう勉強をして様々な問題を知つていかないと、自分がもし差別を受けたとき、そのことが差別ってわからんし、大人になっても今勉強していかないと、わからなと思うから、私はもっとこういう勉強をしたいと思います。

TF(並中・女)板野中学校の皆さんは自分の気持ちを素直に発表していると思います。私はこういう学習は苦手ですけど、私なりに考えていこうと思います。

SG(並中・女)私も板野中学校の人はすごいと思います。私だったらそんなにみんなの前ではっきりと言えないような気がします。一生懸命みんな考えているなど尊敬します。私も部落問題は子どもが学んでも大人がちゃんとと考えなければ、少しも変わらないところがあると思います。子どもも今考えているので、いくつになっても将来一生懸命考えなければいけないし、次の世代の人たちにも差別の愚かさを伝えなければいけないと思います。

10 何も知らなかつたら、差別につぶされてしまうと思う

HH(並中・男)僕としてはやっぱり子どもの頃からいろんな差別問題について学んでいった方がいいと思います。理由は成長していく過程の中で、差別や部落問題に出会っても、何も知らなかつたら、差別につぶされてしまうと思うからです。やっぱり差別はあると思うので、いろんな差別を知つても、間違つた考えに偏るといけないので子どもの頃から正しい知識を学んでいった方がいいと思います。

立江中学校でも、前にこういう学習（全体学習）をなまはんかにしたことがあったんですよ。部落問題とかいろいろ差別について考えたんですけど、中途半端に終わってしまって、何もわからないままだったけど、実際差別があるし、これから成長していく中で差別に出くわすことがあると思うので、やっぱり正しい知識がいると思います。

T3：こういった取り組みが板野中学校で始まって10年目なんです。始めた頃は10年続くと思わなかつたんです。続けていったのはそのときそのときの生徒だったんです。本気で語るというか、本気で返してくれるというか、本気で友だちが好きになり、本気で自分のことが好きになる。その感動を生徒たちが後輩に伝え、その感動をつないでいったんです。この学習は一人一人の本気が問われている問題です。みんなが本気で語り、本気でつながり合えたら学校というものはものすごく楽しくなるし、ものすごい力がわいてくるんです。そんな一人一人のよろこびの中で続いてきた学習なんです。

11 みんなも自信を持って話していったら絶対確実に変わっていきます

SA(男)さっきも言よたけど、まあ大人もちゃんとしたらいいんやけど、僕らはこの部落問題のことをわかっていくというか、いろんなことを知つていて、それを持つてはいるだけでなくて、今間違つていてる大人、間違つていてる人にそれを訴えていくっていう感じで、僕らがしっかりして僕らも大人といっしょに考えていくことが大事だと思う。自分には関係ないと思っていても、これはその形は違つても必ず一人一人に関わってくる問題だと思うんです。だからこそ自分に何ができるかを考えて、いろんな知識を学んでいくことも必要

だし、自分自身の生き方として考えていきたいと思います。

この前全体学習を始めた先輩たちの全体学習をビデオで見ました。その中の先輩たちは輝いていました。
涙が出そうになったけど、自分は自分であるという感じで、自分自身に誇りと自信を持って、部落差別の愚かさを訴えている先輩がたくさんいました。みんなそんな学習を土台として一歩一歩大人になっていくと思うんです。だからこういう場面というのはすごく大切だと思います。たくさん人の前でもまれて意見を出して、その思いを返して、話し合っていったら、いろんな場面で自分を表現していくときのプレッシャーもなくなると思うし、僕も最初はしゃべれなかったけど、3年になってみんなのこと信じたら、いっぱい言葉が出てくるようになってきたんです。だから、みんなも自信を持って話していったら絶対確実に変わっていきますから、誰でもいいですから、僕の意見に返してくれますか。

TF(男)今、SA君が言っていたように、「部落差別にぶつかって先生に相談の電話をかけてきた人がいる」と言つていたけど、僕はそれを聞いて今差別の問題について勉強している意味がやっと分かった。わかっていない人がたくさんいると思うからこれからその人たちに呼びかけていきたい。

12 差別をする、差別をされるという不自由な世界から解放されていくよろこび

T4: 実は昨晩も電話があったんです。その子は小さい頃からものすごく喧嘩の強かった子です。彼は中学2年の時初めて自分が同和地区出身ということを知って荒れだしたんです。そんな彼を私は中学3年で担任しました。何回、彼を抱きしめたか、抱き抱えたか。抱き抱えて彼に訴える場面がいくつもありました。非常に厳しい場面もありました。でも、彼を交えてクラス全体でこの問題を本気で語り合うことはなかった。私と1対1でそのことは話したけど、クラスの中でその痛みやその悔しさやその願いを語り合うことはなかった。27歳になる彼が、もう2年も3年も交際している彼女といざ結婚をという話になったとき、彼女も彼女の両親も喜んだ。でも、2日、3日したら調べるんです。彼が同和地区ということを知ったとたんに彼女の両親は彼女を監禁状態にしたんです。その中で彼女自身も揺れる。あれだけ信じていた彼女が揺れていることが悔しくて彼は電話をかけてきた。「先生、このことを話せるのは先生しかおらん…。」27歳の男が電話の向こうで泣いた。

「今」「ここ」に部落差別があふれている。みんながそれをどう克服していくかということ、その展望が、その確信がはっきりと見えるように、学ばなければならないし、様々な現実を知らなければならぬ。人間は学ぶことにより、知ることにより、本当にそれを解決していく力っていうのが生まれていくと思う。

部落差別の現実を知らない人にとっては、どうしてこんな学習をする必要があるのだろうかという人もいるかもしれない。部落差別はどこにあるのという世界で止まってしまうかもしれない。でも差別をする、差別をされるという不自由な世界から解放されていくよろこび、その道筋をしっかりと学び続けることにより、人間の中にはすごく豊かなものが生まれてくると思う。

この道徳の時間というのは教えられる時間じゃない。その資料について自分自身の本当の気持ちを素直に表現できる時間なんです。そして、クラスの仲間の本当の思いを聞くことができる時間なんです。そんな一人一人の思いを表現し合いながら、仲間の存在に気づき、社会のあり方に目覚め、自分自身を自覚していく。まさに人間として生きていくことの意味を仲間とのつながりを通して問い合わせ続ける時間だと思うんです。今日様々な提起がなされたこと、そのことは自分にとってどのような意味があるのか、みんな自身が主体的に自問自答しながら、みんな自身の言葉でその思いを語っていく。そこに差別やいじめのない社会が創造されていくと思います。残された時間みんなで大事にしながら、みんなの中に豊かなものが広がる時間にしましょう。

SI(立沖・男)2つの中学校が部落問題の勉強をみんなですることは、とてもいいことだと思うけど、今の時間で部落問題のことが全部わかるのは無理だし、でも次の世代が僕らより賢くなっていると思うから、僕らが年を

とったときは、「差別」というものが昔話になっていることを願います。

SA(男)今日、立江中学校に来て本当によかったと思います。いろいろな人と意見を交わして、最初は緊張していたけど、段々その緊張感も遠のいていきました。僕らは板野中学校にみんなが出てくれた課題を持って帰ってこれから学習の中でもっともっと深めていきたいと思います。みんなが一生懸命聞いてくれるのですごくうれしかったし、みんなを見ていたらしっかりと目で聞いているし、話すときも自分の思いを素直に語れているっていうことがすばらしいと思います。また会える機会があったら会いたいと思います。

13 周りに流されるということから差別に発展する

NN(男)これは自分自身への問いかけであるんですが、立江中学校の皆さんにも言いたいことなんです。それは、お互い自分自身に自信を持って頑張っていきましょうということです。僕自身もあやふやなもので、周りの雰囲気に流されて、本当の自分が出せないときが多くあります。部落問題学習をしていく上で、やっぱり自分というものを持っていないだとダメだと思うんです。周りの雰囲気に流される状態じゃ、どうにもならないいし、周りに流されるということから差別に発展すると思います。自分自身をしっかりと自覚したり、セルフイメージをどのように持っているか、人間としてどのように生きていきたいかを、今だからこそ、考えていかなければならぬと思います。

今、中学校で仲の良い子がいるとします。でもその子とはやはり高校へ行ったりしていつか離ればなれになるのは現実だし、どんなところ、どんな状況に至っても自分を見失うことのない自分をつくることが必要だと思います。そして、何より自分の生き方に背かないように生きていくことが大切だと思うし、周りに流されない自分をつくっていくことが大切だと思います。

TA(並木・男)今日、俺が思ったことは、森口先生みたいな教師が、この立江中学校に何人いるかと思いました。僕が思う限りではわからないけど、いよいよ気があるので、先生みたいな熱い先生がうらやましく思いました。最後に今日は本当にありがとうございました。

14 人を好きになるためには、まず自分が好きにならなければならない

T5: みんな熱いものを持っているんです。隣に座っている子も、前に座っている子も、みんな人間として熱いものを持っているんです。人間の値打ちっていうものは、その人をどれだけ知っているかということなんですね。人は知れば知るほど、いろんなことを学べるんです。立江中学校という学校で出会った先生、仲間、知れば知るほど良いところが見えてくるんです。味があるんです。

私はいろんなところへ行かせてもらうことがあります。いろんな人と出会います。良い人と出会っていくと思っていたけど、そうじゃなくて、みんな良い人だったんです。欠点もあるけど、良いところもたくさん持っている。それを学び合う、認めるために学校はあるんです。出会えてよかったと思えるために学級はあるんです。人を好きになるためには、まず自分が好きにならなければなりません。自分の良さ、欠点、いろんなところが見えてきて、そして、自分というものを自覚して、そこで豊かなものをつくり続けていく自分をつくる。そういう意味で今日の出会いを大切にし合いながら、それぞれのクラスが生き生きしていくよう頑張りましょう。

SY(女)今日はいろんな意見が聞けてよかったです。こういうきっかけでお互いの生活がよくなっていますたらと思うし、一生懸命発言を聞いてくれた皆さんや発表してくれた皆さんに感謝したいと思います。

T6: 今日みんなが会えたことを一人一人のよろこびとして、みんなで一日一日を充実させていきましょう。今日はみんなありがとうございます。終わります。